

三四会 横浜支部だより

(昭和26年4月18日第三種郵便物認可)

平成27年度三四会横浜支部(横浜三四会)総会が、11月18日(水)横浜駅西口バイシエラントンホテル&タワーズで開催された。当日は武田純三四会会長、安井正人医学部長補佐(61回)、藤本英一(鎌倉三四会会長)(40回)、数野隆人(藤沢三四会会长)(43回)、松村日出志(県北三四会会长代理)(58回)に加え、三田会・三四会の交流を目的として横浜三田会の鈴木邦部卒(61回)を、主賓としてお招きした。会員総数77名中140名(開業および他地区勤務医44名、勤務医96名)の会員が集まり、来賓や応援指導部までを含めると153人が参加し、八十島唯一会長

(産婦37回)が就任し、「新生横浜三四会」として、会員全員参加目標として企画してから9回目の総会であるが、過去を含めて参加数最多の盛大な総会となった。当日の司会進行は、けいゆう病院副院长(内60回)が務めた。八十島会長から「本会の目標は会員間の親睦と他支部との交流にあり、慶應医学の医師としての自覚を持つ」ことであるが、社中横浜三田会との交流を深めていきたいと挨拶に加え、当会ホームページ閲覧のご案内と、慶應医学100周年記念新病院棟建設事業の当支部からの募金協力に対する檄を述べられ開会した。その後武田三四会

最も歴史ある創設113年の横浜三田会のあらま木会長から、全三田会中を頂いた。また初めてお招きした横浜三田会の鈴木会長から、全三田会中設をしつかり行う所存であるという、岡野新医学部長から託されたお話しを紹介いただき、今後両会の交流を約束された。

庶務・会計報告の後、帝京大学医学部付属病院第一外科准教授、新見正則先生(外64回)による、『トライアスロン、ノーベル賞をパロディ化したものではあるが、風刺や皮肉で与えられるノーベル賞をパロディ化したものではあるが、風刺や皮肉で与えられる研究』10部門に与えられた賞で「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」

新見先生は、このイグノベル賞医学賞を2013年に受賞している。イグノベル賞受賞は日本人では7年連続だそうだ

が、慶應義塾では本物のノーベル賞はもちろんです、イグノーベル賞も得られた。安井医学部長は、大学は学問をすり明(外63回)が務めた。院長(内60回)で本会役員の藤井芳明(内60回)が務めた。八十島会長から「本会の目標は会員間の親睦と他支部との交流にあり、慶應医学の医師としての自覚を持つ」ことであるが、社中横浜三田会との交流を深めていきたいと挨拶に加え、当会ホームページ閲覧のご案内と、慶應医学100周年記念新病院棟建設事業の当支部からの募金協力に対する檄を述べられ開会した。その後武田三四会

最も歴史ある創設113年の横浜三田会のあらま木会長から、全三田会中設をしつかり行う所存であるという、岡野新医学部長から託されたお話しを紹介いただき、今後両会の交流を約束された。

庶務・会計報告の後、帝京大学医学部付属病院第一外科准教授、新見正則先生(外64回)による、『トライアスロン、ノーベル賞をパロディ化したものではあるが、風刺や皮肉で与えられる研究』10部門に与えられた賞で「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」

新見先生は、このイグノベル賞医学賞を2013年に受賞している。イグノベル賞受賞は日本人では7年連続だそうだ

漢方、そしてイグノーベル賞から学んだこと』に会長から新病院棟建築状況と募金への参加要望の話があり、支部活動の活性と地区三田会との連携を勧められた。更には三四会員の医師会活動について言及があり、最近の三四会活動について述べられた。安井医学部長は、大学は学問をする場であり学問を通じて若い人材を育てる。またその器である新病院の開設をしつかり行う所存であるという。岡野新医学部長から託されたお話しを紹介いただき、今後両会の交流を約束された。

新見先生が初受賞である。受賞の対象になったのは「心移植後のマウスにオペラを聴かせると拒絶反応を抑制して延命効果があった」というもので、通常心移植後8日後

にマウスは自己の免疫拒絶反応で死亡するが、オペラの『椿姫』を聴かせると最長90日・平均40日生存した。曲をモーツアルトにすると平均20日、

下鉄工事の音等では何もないのと同じ8日で死亡したことが、研究の骨子である。ネズミを走らせて免疫が上昇し、ある種の漢方薬も免疫力を増加させる等、付随した細かな研究が付け加わり、大変膨大な研究であることが披露された。

その時手に取られたの人生は決して順風満帆な結果がなかった」というものではなかつたそう

で、そこでは本職の血管外科医として手術できるものではなかつたそう

で、修練されて留学、そして慶大外科から関連の帝京大学に赴任しておられた。なお座長は、新見先

生の外科学教室の先輩にリニック院長で三四会副会長・本会役員の古橋清和(外63回)が務めた。イグノーベル賞とは、サイエンスユーモア紙『風変わりな研究』の年報』とその編集者マーク・エイブラハムズ氏により1991年に創設され10部門に与えられる。ノーベル賞をパロディ化したものではあるが、風刺や皮肉で与えられる研究』10部門に与えられた賞で「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」「人々を笑わせた賞で」

が、慶應義塾では本物のノーベル賞はもちろんです、イグノーベル賞も得られた。安井医学部長は、大学は学問をすり明(外63回)が務めた。院長(内60回)で本会役員の藤井芳明(内60回)が務めた。八十島会長から「本会の目標は会員間の親睦と他支部との交流にあり、慶應医学の医師としての自覚を持つ」ことであるが、社中横浜三田会との交流を深めていきたいと挨拶に加え、当会ホームページ閲覧のご案内と、慶應医学100周年記念新病院棟建設事業の当支部からの募金協力に対する檄を述べられ開会した。その後武田三四会

最も歴史ある創設113年の横浜三田会のあらま木会長から、全三田会中設をしつかり行う所存であります。岡野新医学部長から託されたお話しを紹介いただき、今後両会の交流を約束された。

新見先生が初受賞である。受賞の対象になつたのは「心移植後のマウスにオペラを聴かせると拒絶反応を抑制して延命効果があつた」というもので、通常心移植後8日後

にマウスは自己の免疫拒絶反応で死亡するが、オペラの『椿姫』を聴かせると最長90日・平均40日生存した。曲をモーツアルトにすると平均20日、

下鉄工事の音等では何もないのと同じ8日で死亡したことが、研究の骨子である。ネズミを走らせて免疫が上昇し、ある種の漢方薬も免疫力を増加させる等、付随した細かな研究が付け加わり、大変膨大な研究であることが披露された。

その時手に取られたの人生は決して順風満帆な結果がなかった」というものではなかつたそう

で、そこでは本職の血管外科医として手術できるものではなかつたそう

で、修練されて留学、そして慶大外科から関連の帝京大学に赴任しておられた。なお座長は、新見先



勢亭(34)安田三弥(34)川之(58)山下真紀(58相当)一夫(66)藤井博史(66)後藤口龍文(35)竹内宏(36)鈴木理文(38)野崎正之(39)中島史雄(59)三角隆彦岩田清二(41)佐藤善之(40)横井正博(39)香川順(40)木村(41)八木禮昭(41)朝倉均(42)市川敏明(42)西川武(43)山前邦臣(44)秋月(44)正史(45)杉浦芳章(46)石井忠信(47)木内準之助(48)宮地清光(48)郡建(49)吉田和彦(49)吉田博之(49)吉田宏(62)田口暢彦(62)掛田(63)江端広樹(64)藤田浩(64)荒井宏(69)稻葉(65)秋葉靖雄(69)小山(66)山下裕(68)原田(67)増山宏明(67)河原(68)由恵(68)山下裕(68)原田(69)秋葉靖雄(69)小山(70)和弘(69)安井信隆(69)田和弘(69)安井信隆(69)松田洋人(69相当)各務宏(71)倉田忠宣(70)吉津晃(71相当)内川研(71相当)佐藤智行(72)林忍(72)四家達彦(72相当)陳建綱(72相当)藤田里子(73)佐藤浩三(73)塩見哲也(74)仲里朝周(74)関博章(74)畠田眞人(74相当)川口正春(74相当)江川智久(74相当)峯裕(75)井上芳(75)高江雄二郎(75)吉田啓佑(92)松永崇宏

もいらっしゃる能勢亨先生(内34回)による乾杯のご発声で開宴した。34回生の大先輩から94回生の新卒者までが集つ会であったが、研修医に対しての会費の割引効果から、初期9名・後期12名の研修医が参加し、会場には若い層の出席者が多く、華やかな雰囲気の宴であった。

締めとして、4名のチアリーダーをバックに、2名の応援指導部の指揮による応援歌「若き血」「三色旗の下に」「丘の上」のメドレーを拍手交えながら歌い、最後に「慶應讃歌」を全員で同大いに盛り上がり、興奮冷めやらぬうちに散会となつた。

出席者・八十島唯一(37)新見正則(64)武田純三(52)安井正人(68)藤本英一(40)数野隆人(42)松村日出志(58)鈴木邦之(能